

■アストロデザイン：東京・大阪のプライベートショーにおいて 技術セミナーを開催



アストロデザイン本社ビル（東京都大田区南雪谷／写真上）では2019年6月13日と14日、またグランフロント大阪 北館4F（大阪府大阪市北区大深町）にて7月25日と26日に行われたプライベートショーでは、同社が長年に亘り培ってきた4K/8K映像技術を主軸とし、スポーツ、芸術、医療、インフラ検査など多岐にわたる分野への提案を行った。

また、「8Kを活用したインフラ検査」「8Kで人物を撮るとのこと」「8K編集時代のH/W、S/Wにおける課題・考察」「8K時代に向けて：スポーツ/イベントでの8Kライブビューイング実施」といった技術セミナーも開催した。

▶ <https://www.astrodesign.co.jp/news/news-20190415-3278.html>



東京会場での出展製品は次の通り。

■ 8K シアター

高輝度 8K プロジェクターと8K/120p 映像技術を応用した、アクティブシャッター方式による超リアルな 3D コンテンツを 22.2ch 音声システムで体感。

■ 8K カメラ活用

カムコーダーやマルチパスカメラなど、同社が開発した様々な形状の 8K カメラによる、水中撮影・VR などの 8K アプリケーションを紹介。

■ 8K ライブ制作/編集

240P/120P/60P に対応しスロー演出の可能なビデオサーバー、4 系統のスーパー入力に対応した8K DSK、8K to HD の切り出し用コンバータ、12G-SDI 対応55 インチ 8K モニタを紹介。ハイパフォーマンスコンピューターTamazone Workstation を使用したノンリニア編集システム、簡易リニア編集システムを提案した。

■ AI・CGVR

Tamazone Workstation の高い演算処理能力による、さらに進化したアップコンバート技術や高精細 3DCG によるバーチャルミュージアム。

マルチユース 8K カメラ CM-9019-B と 250° の画角をもつフィッシュアイレンズを組み合わせた撮影システムや自社開発のニューラルネットによるディープラーニングシステムを出展した。

■ 科学分析・検査

アストロデザインのコアテクノロジーが、分析・検査の世界でも新しい風を巻き起こすという理念のもと、超高速カメラ、マルチスペクトルカメラ、新原理超解像レーザー顕微鏡、外観検査装置、8K カメラ自動検査装置なども紹介した。

パンフレット・カタログ・冊子・ポスター・名刺・封筒・ノベルティ

企画

デザイン

制作

印刷


配布

展示会・内覧会用の小中ロット印刷ならお任せ下さい。

PDF入稿
大歓迎!!

プリンターやコピーよりも
早い・安い・きれいをモットーに
短納期と低印刷コストをお約束

当社のプリンティングサービスは
名刺から大判ポスターまで、社内一環生産をしておりますので
公表前の情報が外部へ漏れることなく安心です



www.uni-w.com

月刊FDI発行元

株式会社 ユニワールド

TEL.03(5376)7233 FAX.03(5376)7246

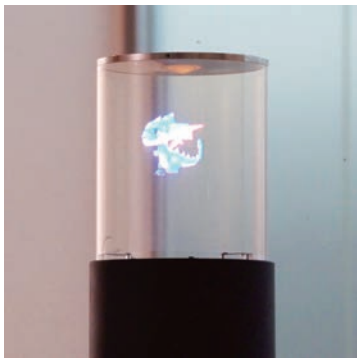
■ソニー：360° 映像表示可能な円筒透明スクリーン

ディスプレイを米国・SIGGRAPH 2019 に出展

ソニーは、米国・カリフォルニア州ロサンゼルスにて7月28日(現地時間)より開催したコンピュータグラフィクスとインタラクティブ技術の国際会議「SIGGRAPH 2019」において、ホログラムスクリーン技術を使った360°映像表示可能な円筒透明スクリーンディスプレイ(開発品)を展示した。

本開発品は、透明な円筒スクリーンに映像を投影することで、周囲360°どこからでも映像を楽しむことができるディスプレイ。通常、光は透明な物体に対して透過するため、透明ディスプレイは、その透明度と投影された映像の輝度を両立するのが困難であった。今回ソニーは、高い透明度を保ちながら高輝度の映像表示が可能なホログラムスクリーンを新たに開発した。また、独自の円筒投影光学設計により360°全方位から鮮やかな映像の視聴を可能にした。

これらの技術により、周囲の空間と映像が融合した新たな映像体験を提供する。



360°映像表示可能な円筒透明スクリーンディスプレイ(開発品)

また、SIGGRAPH 2019では、本開発品以外にも網膜直描技術を使ったフルカラーのARアイウェアの試作機の展示も行っている。

360°映像表示可能な円筒透明スクリーンディスプレイの展示内容についてSIGGRAPH 2019では、本開発品を使用した下記3種類の展示を行っている。

1. 360°高速カメラトラッキングによる2D映像への実在感付与：毎秒1,000フレームで撮像が可能な高速ビジョンセンサー(IMX382)を用いた高速カメラにより、視聴者の位置を360°シームレスにリアルタイムトラッキングすることで、常に円筒内にあるように映像を表示し、2D映像でありながら実在感の高い表現を実現している。
2. 開発品を複数台連動させることによる新しい空間演出アプリケーションの提案：本開発品を複数台使用し、それぞれの映像を連動させたデモ展示を行い、映像クリエイターに新たな空間演出手法を提案する。
3. 360°映像を活かした、光と音のリアルタイムインタラクション：360°映像とそれに協調するサウンドをハンドジェスチャーでリアルタイムに操作し、新しいインタラクティブな体験をお楽しみいただけるアプリケーション。本アプリケーションはソニー・イ

ンタラクティブエンタテインメントが開発を行い、デモ展示に協力している。

*SIGGRAPH 2019(Special Interest Group on Computer Graphics)

米国ACM(Association for Computing Machinery)主催によるコンピュータグラフィクスとインタラクティブ技術関連で世界最大規模の国際会議。

会期：2019年7月28日(日)～8月1日(木)

会場：米国カリフォルニア州ロサンゼルス・コンベンションセンター
ソニーブース：Emerging Technologies ET-118

▶<https://s2019.siggraph.org/>



■ソニービジネスソリューション：AIアナウンサー「荒木ゆい」を、

玉川高島屋S-Cのインフォメーション係として提供

～ショッピングセンターでは全国初、

働き方改革をAI技術でサポート～

ソニービジネスソリューション(株)(本社：東京都港区、代表取締役：宮島和雄、以下、ソニービジネスソリューション)は、玉川高島屋ショッピングセンター(東京都世田谷区、以下、玉川高島屋S-C)に、AIアナウンサー「荒木ゆい」ボイス・プラットフォームサービス(以下、「荒木ゆい」)を提供した。「荒木ゆい」のショッピングセンターでの採用は全国初で、館内施設やイベント情報などをアナウンスするインフォメーション係として、7月16日(火)から活用されている。

「荒木ゆい」は、(株)Spectee(本社：東京都新宿区、代表取締役：村上建治郎)が開発した音声読み上げサービス。文章を音声で読み上げる「Text to Speech(テキストトゥスピーチ)」技術にディープラーニング(深層学習)を取り入れて、実際にアナウンサーが読んでいる約10万件のニュース音声を機械学習したことで、より人間に近い滑らかな発音での読み上げを実現している。また、読み上げたい内容をパソコンでテキスト入力するだけで音声データが生成されるため、特別な機材やスキルの必要はなく、音声読み上げサービスを活用できる。

玉川高島屋S-Cを運営する東神開発(株)様(本社：東京都世田谷区、代表取締役社長：倉本真祐)では、ショッピングセンターにおける従業員の働き方改革を目指し、「荒木ゆい」が採用された。

これまで、繁忙期には30分ごとに複数種類の館内アナウンスを行う必要があり、インフォメーション係の業務負担が課題となっていた。また、インフォメーション係の従業員向けに、トレーニングの機会を確保する必要もあった。

「荒木ゆい」は、PCにテキストを入力するだけで館内アナウンスを準備できるため、インフォメーション係の業務負担を軽減することが可能。また、肉声の場合、発音やアクセントに癖が出るケースもありましたが、「荒木ゆい」を導入することでアナウンスが平準化され、買い物客にとってより聞き取りやすい館内アナウンスとなることも期待されている。

「荒木ゆい」は2018年の取り扱い開始から、放送業界を中心として導入が進んできた。少子高齢化による人手不足や、働き方改革による業務効率化への対応が必要となる中、ソニービジネスソリューションでは、放送業界だけでなく、流通・小売業や自治体など幅広い分野に本サービスの提案を進め、AI活用による業務課題の解決をサポートしていく。

◇関連リンク：ソニー製品サイト AI アナウンサー

▶ <https://www.sony.jp/professional/ai-announcer/>



【問い合わせ先】ソニービジネスソリューション（株）

業務用商品 購入相談窓口

TEL：0120-580-730（フリーダイヤル）

◆ ブラックマジックデザイン：ブロードウェイの人気舞台、「Network」、Blackmagic Micro Studio Camera 4K およびATEMスイッチャーを使用

Blackmagic Design は、トニー賞を受賞したブロードウェイの人気舞台、「Network」で同社の製品が使用され、ニュース中継の現場にいるような没入型の体験を観客たちに提供したことを発表した。

ビデオデザイナー/シネマトグラファターのタル・ヤーデン (Tal Yarden) 氏は、Micro Studio Camera 4K、Studio Camera 4K、Video Assist 4K モニター/レコーダー、ATEM 2 M/E Production Studio 4K、ATEM 1 M/E Advanced Panel をステージ上や舞台裏で使用して、パフォーマンスの撮影やライブスイッチングを行い、マルチメディアを駆使したユニークな舞台を観客に届けた。

トニー賞、ローレンス・オリヴィエ賞を受賞歴を持つイヴォ・ヴァン・ホーヴェ (Ivo van Hove) 氏が演出した「Network」は、パディ・チャイエフスキー (Paddy Chayefsky) 氏によるアカデミー賞受賞作品をリー・ホール (Lee Hall) 氏が翻案。ブライアン・クランストン氏演じるニュースキャスター、ハワード・ピールの狂気に満ちたスクリーン上の人生を追う。舞台のセットはテレビ局内部に見立てられている。出演者やスタッフは、ステージ上や舞台裏の映像機材を駆使してスタジオに電力を供給し、ステージ上のスクリーンにコンテンツを送信した。これらの機材には、Video Assist 4K やワイヤレス・トランスミッターと共にハンドヘルドのリグに組み込まれた Micro Studio Camera 4K、三脚にマウントしてテレプロンプターを備えた Studio Camera 4K が含まれる。

Studio Camera 4K は、ニュース編集部のシーンでクランストン氏を撮影するのに使用された。

ヤーデン氏は説明する。「Micro Studio Camera 4K は、常に稼働しており、このショーのメインカメラとして活躍しました。セットの周囲を動き回り、ステージ上の複雑な流れのアクションを捉える、スムーズな長尺ステディカムショットをいくつも撮影しました。そして最も重要なのは、舞台の山場であるブライアンの狂気に満ちた独白シーンで、彼はステージ上を歩き回り他の登場人物たちと接触するのですが、その様子も撮影したことです。」

劇場の外で撮影したシーンもあった。タチアナ・マスラニーとトニー・ゴールドウィンが街中で出会い、路地を歩いて楽屋口から劇場

へと入り、舞台に姿を表すまでのシーンも Micro Studio Camera 4K で撮影された。それぞれのパフォーマンスの最中、すべてのシーンはライブ撮影され、劇場内の観客に向けて放送された。

「Micro Studio Camera 4K を使うことに決めた理由は、ハンドヘルドで動き回り、ステージ上ではジンバルを使いたかったからです。Micro Studio Camera 4K はサイズの面でも機能の面でも柔軟性に優れ、屋外から劇場に入るシーンの撮影が可能だっただけでなく、ステージ上での撮影にも威力を発揮しました。何より、Blackmagic Design のカメラには、シネマライクな雰囲気があり、それが私を魅了したのです。私のバックグラウンドは映画制作ですからね。」とヤーデン氏。

カメラマンたちは全員、カメラを扱った経験を持つ俳優であった。彼らは俳優労働組合を通じてこの作品に参加している。「彼らは、いわゆる映像エンジニアやカメラマンではありません。カメラ操作のトレーニングを受けた俳優です。彼らもこの舞台の中で台詞のある役を演じています。」ヤーデン氏は続ける。

「そのような事情もあり、シンプルなカメラを探していたんです。操作が簡単で、余分な機能が一切付いてないカメラです。

Blackmagic Design のカメラはこのニーズに一致しました。そして低価格なため、予算内に収まったんです。」

俳優がカメラマンとしての役割を担う一方、「Network」のスタッフ数名も、ニュース編集室セットの一部として舞台に上がったという。「ATEM 2 M/E Production Studio 4K は、ステージの下のラックに設置されていましたが、ATEM 1 M/E Advanced Panel はステージ上に設置されており、そこで実際のオペレーターが操作していました。ステージ上のATEM オペレーターは、カメラのモニタリングだけでなく、ATEM の操作が書き込まれた台本を追って、マトリックスルーターでプリセットを呼び出し、ステージ上の複数のスクリーンにカメラフィードを送信しました。作品の一部として組まれたセット内の様々なモニターを使用するにあたり、ATEM のマルチビューは、非常に便利でしたね。」ヤーデン氏は最後こう結んだ。 Tech crew on the London production of “ Network.”

■ アセント：九州放送機器展2019 出展概要

大型映像システム、放送局用システム、防災情報システムなどを企画・提案から開発・施工、そしてメンテナンスまで、トータルソリューションを手掛ける(株)アセントでは、九州放送機器展にて以下の製品を出展する。

◇ 米国CHYRONHEGO 社製 バーチャルグラフィックス

「Virtual Placemennt」

◇ イスラエル製 ワイヤレスビデオシステム

「製品名・ABonAir」

【問い合わせ先】(株)アセント

東京都港区芝浦4-16-23 AQUACITY 芝浦7階

TEL:03-5419-6022

▶ <http://www.ascent-jp.com/>



■ 朋栄 :九州放送機器展2019 出展概要

SDI/IP 統合環境、スタジオサブ関連、簡易中継など最新製品/ソリューションを展示。スタジオサブ関連製品やSDI/IP 統合制御環境、字幕制作対応製品、簡易中継ソリューションなど、朋栄の最新製品/ソリューションを展示。

1. スタジオサブコーナー

■ 4K 対応ビデオスイッチャー HVS-2000

ライブイベントから、中継車、スタジオサブまでさまざまなシーンで活用できる24 入力18 出力のビデオスイッチャー。最大48 入力18 出力または40 入力22 出力まで拡張可能。各M/E にキーヤーとFLEXaKEY™をそれぞれ4 つ搭載し、多彩な演出に対応。

最大12 入力の4K スwitchャーとしても活用可能。キューシートによる素材管理により、進行順リストに従った送出運用が可能なワンタッチコントローラー OTC-1000 も出展。(協力: (株)リバアフィールド)

■ マルチチャンネルビデオサーバー MBP-1000VS シリーズ

4K にXAVC™、HD にMPEG-2 をハードウェアコーデックとして搭載したマルチチャンネルビデオサーバー。HD 対応モデル、4K 対応モデル、12G-SDI 対応モデル、IP 対応モデルをラインアップし、インジェストやブレイアウトなど幅広い用途で使用可能。グラフィックス送出対応モデルでは、2 系統のテロップ送出にも対応し、動画のブレイアウトに合わせてテロップ素材を送出したり、動画とテロップの合成出力が可能。

■ 12G-SDI 対応キャラクタージェネレーター VWS-1000 シリーズ

テロップ送出機能、動画送出機能、ミキサー機能を搭載したキャラクタージェネレーター。4K1 系統のPGM V/K、PREV V の送出、V/K の静止画キャプチャーに対応。HD 送出にも対応し、2 系統のPGM V/K、PREV V/K の送出、V/K の静止画キャプチャーが可能。IP 入出力対応モデルもラインアップ。

2. HDR/SDR サイマル送出コーナー

■ マルチパスシグナルプロセッサ FA

12G-SDI 対応シグナルプロセッサ。標準でHD 2 系統のフレームシンクロナイザー、オプションで4K 1 系統への対応をはじめ、HDR/WCG の各種変換、アップ/ ダウン/ クロスコンバーター、12G/3G 変換、2SI/SQD 変換など、各種機能を搭載可能。新バージョンでは、オプションで3D-LUT モードの追加、SR Live for HDR ワークフローに対応。

3. SDI/IP 統合環境

■ SDI/IP 統合制御ソフトウェア SOM-100

SDI (ベースバンド) 映像機器とIP 映像機器の混在する環境で、各種映像機器を統合的に制御・監視するためのオーケストレーションソフトウェア。SMPTE ST 2022-6 およびST 2110 に対応するIP 対応ビデオサーバーMBP-1000VS-IP、TICO コーデックを活用することで3Gbps 帯域で4K 映像の伝送を可能にするモジュール製品USF-106TICO-12G、朋栄エレテックス製IP 対応信号発生機ESG-4200 など紹介。

4. バーチャルシステムコーナー

■ バーチャルスタジオ/ リアルタイムCG システム VRCAM-NX

バーチャルスタジオ運用とリアルタイムCG (RCG) 運用の両方を実現。バーチャル運用では4K 対応ソフトウェアクロマキーを利用可能にし、レイヤー機能も新搭載。シーンの組み立てや、カメラの動きに連動するCG と非連動のCG を直感的に切り分け可能。

■ リアルタイムカメラトラッキングシステムStarTracker

天井や床にマーカーを貼るだけで、精度の高いフリーハンドカメラトラッキングを実現。一度設定すれば、電源オフ後も再設定することなく運用が可能。センサーユニットと共に、リアルタイム・ポジション・データを算出する小型プロセッサを搭載。(英国 Mo-Sys Engineering 社)

5. 字幕制作コーナー (朋栄IBE 製品)

■ 8K/4K 対応字幕アシストサービス NeON-CA

音声認識を活用し、映像ファイルの音声から文字情報を自動生成するクラウドサービス。テキストエディタ感覚の「字幕エディタ」を搭載しており、ページ構成/ 文字/ 位置/ タイミングを編集可能。

字幕ページ情報をARIB ファイルに出力することにより、NeONIX やNeON-SHV で送出用ARIB ファイルを作成可能。

■ 字幕ソフトウェア ICCW-100/TRS-55/IMP-210/ICCU-100

MXF ファイルに字幕情報を重畳できるICCW-100、字幕確認用プロキシファイルを手軽に生成できるTRS-55、PC 上で字幕付きMXF ファイルを手軽に再生可能なIMP-210、重畳された字幕データを分離し、再編集を可能にするICCU-100 の各ソフトウェアを紹介。

6. 簡易中継コーナー (カナダDejero 社 輸入取扱製品)

■ H.265/HEVC 対応簡易中継装置 Dejero EnGo/PathWay

ビデオ映像をH.265/HEVC でエンコードし、6 つの携帯回線をブレンディングし、ネットワークを広帯域化して伝送する簡易中継装置。ポータブルなEnGo、ラックマウント型のPathWay。ニュース取材、スポーツ報道、ライブイベントなど、遠隔地の取材映像/ イベント映像を放送するのに理想的なソリューション。

■ モバイルネットワークルーター Dejero GateWay Router

携帯回線やWi-Fi など複数回線をブレンディングし、高速インターネット環境を構築可能。現場からニュースルームやメディア資産管理システムにアクセスしたり、大容量ファイル送受信、クラウドサービス利用、VoIP を使った通話など、インターネットワークフローを拡張。

※ SR Live for HDR はソニー(株)の提唱するHDR 映像制作ワークフロー。

※ XAVC はソニー(株)の商標。

【製品に関する問い合わせ】(株)朋栄 国内営業本部

TEL : 03-3446-3121 FAX : 03-3446-445

e-mail : sales@for-a.co.jp

▶ https://www.for-a.co.jp/news_events/news_releases_4818.html

